

## 第10回「出来高と株価」

出来高とは実際に取引された売買数のことです。

出来高によって価格変動の背後にある勢力をある程度推計することができます。価格動向とともに出来高を追うことによって市場の背後にある買い圧力や売り圧力をより正確に測ることができるわけです。下のチャートをご覧ください。

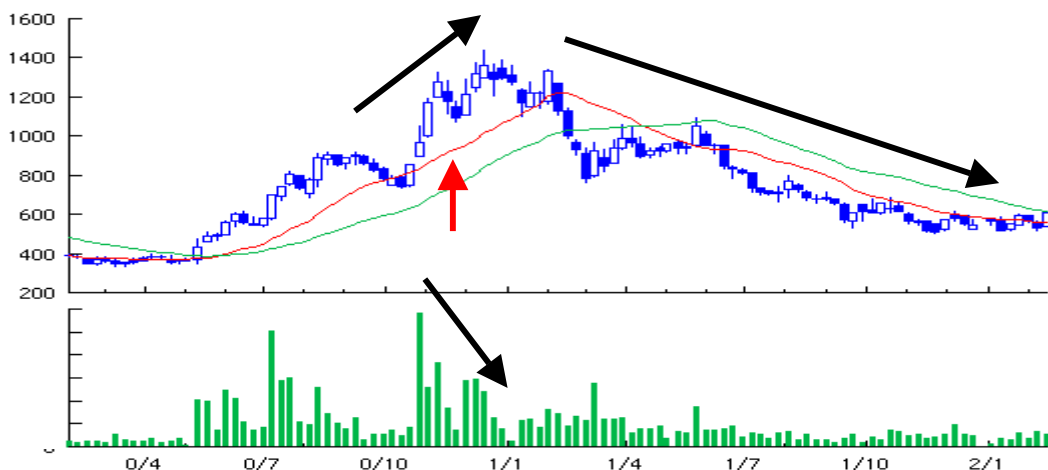


株価の上昇に合わせて出来高が増加している事がお解り頂けると思います。

これが株価と出来高の基本的な関係（パターン）です。

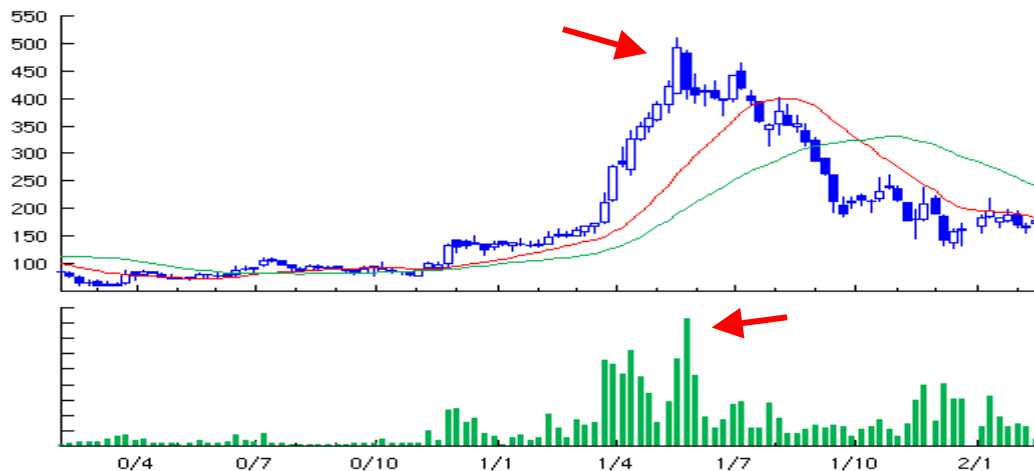
上昇トレンドでは、価格が上昇すれば出来高は増加し、下降トレンドでは、出来高は減少するはずですので、このパターンが継続する限りは、出来高は価格トレンドを確認しているといえます。

又このパターンに矛盾が起こった場合は注意が必要です。



上図の様に上昇トレンドの中で、出来高が減少しながら株価の値上がりが続いた場合は明らかに基本的パターンに矛盾しており、その後の波乱又は急落のリスクが非常に大きいと言えます。

出来高と株価の関係の特徴としては株価の天井圏又は底値圏で増加する傾向が有り相場の変わり目を判断する指標として利用する事も出来ます。  
下の図をご覧ください。



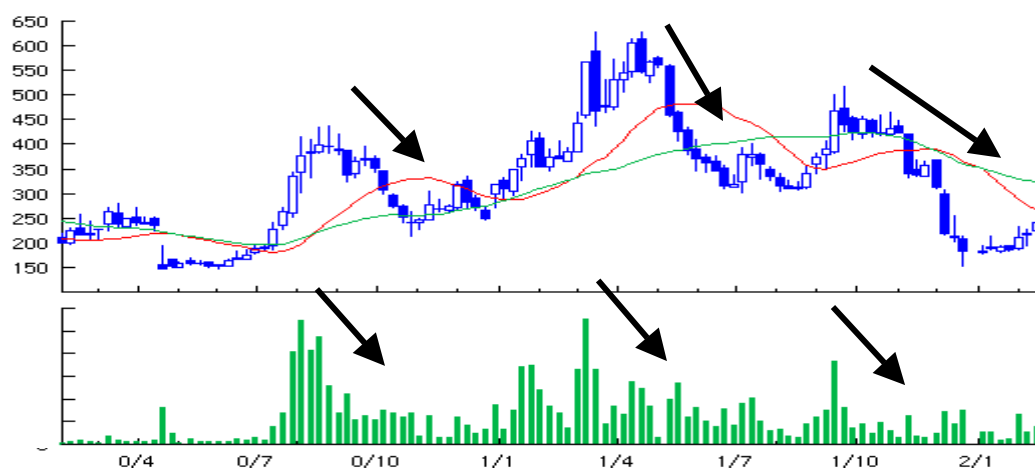
赤い矢印に注目して下さい。天井圏で出来高が一段と増加しており、その後出来高の減少と共に株価も下落しています。この様に株価が長期上昇後に出来高が急増した場合は、そこが天井だったと言う事が多々あります。  
次は下のチャートをご覧ください。



株価が長期間下落し出来高の急増と共に緩やかな反発に転じているのがお解り頂けるとと思います。この様に天井圏、大底圏のシグナルとして出来高を参考にするのも1つの方法だといえます。  
人間心理とは不思議なもので株価が下がっている時はまだ下がると思いますし、逆に株価が上がっている時はまだ上がると思うものです。  
しかし株価はいつか必ず天井を打ちますし、いつか必ず底を打ちます。  
ではなぜ天井圏で出来高が増加するのかと言いますと、上昇初期は余り注目されないのが事実です。少くらしい値上がりする株は沢山ありますから。

しかし暫く上昇が続くと誰かが気付くそのうち投資雑誌に取り上げられ、アナリストが推奨を始め、証券会社が顧客にセールスを始めます。後は新規の買いが一斉に入って出来高が急増するという事です。もうその時には株価はかなり値上がりしている事が殆どなので、更なる上昇は見込めず買った辺りが天井となってしまうのです。情報だけを頼りに投資をする事がいかに怖い事かがお解り頂けるはずです。チャート分析が出来ればそのような事には決してなりません。

又底値圏での出来高の急増ですが例えばある株の悪材料が発表されたとします。その株がじりじり値下がりを始め、更に加速するように株価が下がりだすと、アナリストが悪材料を出し、専門誌や雑誌が悪材料を出します。次々出てくる悪材料に怖くなり多くの一般投資家が投げ売りを出した時に出来高が急増し大底を打つと言う事になります。下のチャート図をご覧ください。



出来高の減少する時期と株価が下がる時期を比べてください。出来高の減少が始まっても株価の方は暫くの間は高値圏に位置しています。出来高の減少に気付けば一旦利食いをし、下落した後に買いサインが出れば再度買い直すと言う投資方法がベターではないでしょうか。

出来高とは人気投票の様な面もあり、出来高の多い株はその時の人気の高い銘柄だと言えるでしょう。しかし株式投資の基本は「人の行く裏に道あり花の山」であり、人気の無いときに買い、人気の出て来た時に売る、言い換えれば安い時に買い、高い時に売る事だと思います。情報に振り回されるのではなく、自分のスタイルを確立する事が最も大事な事ではないでしょうか。チャート分析の手法を身に付ける事こそ自分のスタイルを確立する為の最善の方法だと考えます。

第 10 回終了